

科目名	成人看護援助論Ⅱ		時期		時間	単位
担当教員	非常勤講師		2年次	前期・後期	30時間	1単位
科目設定理由	近年、医療技術の進歩に伴い、病気をもちながらも生活を営むことが可能となってきた。また、近年の高齢化や生活習慣の変化により慢性的な経過をたどる人や、前立腺がんや膀胱がん、肺がんや慢性閉塞性肺疾患に罹患する患者も増加傾向にある。そこで、専門基礎分野で学んだ知識と関連させながら、各機能に障害のある対象の特徴を理解し、それぞれに応じた看護実践力を養う必要があるため当該科目を設定した。					
学習目標	1 慢性期にある対象とその家族の特徴および看護を理解する 2 慢性期にある対象がセルフマネジメントを継続するための看護を理解する 3 内分泌機能、腎・排尿機能、呼吸機能の障害のある患者への看護を理解する					
修得する看護技術項目	No. 4 食事指導 No. 54 簡易血糖測定					
授 業 計 画						
回数	項目	内容				備考
1～5	内分泌機能障害のある患者の看護	1 内分泌機能障害の原因 2 内分泌機能による症状と観察 3 治療を受ける患者の看護 (1) 糖尿病患者の看護（1・2型糖尿病） (2) 甲状腺疾患患者の看護（甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症、甲状腺がん） (3) 副腎疾患患者の看護 (4) 下垂体疾患患者の看護（下垂体腫瘍）				講義・演習 No. 4 No. 54
6～9	腎・排尿機能障害のある患者の看護	1 腎・排尿機能障害の原因 2 腎・排尿機能障害による症状と観察 3 治療を受ける患者の看護 (1) 急性・慢性腎不全患者の看護 (2) 腎炎・慢性腎臓病患者の看護 (3) 前立腺肥大のある患者の看護 (4) 腫瘍（腎がん、膀胱がん、前立腺がん）のある患者の看護 (5) 腎・尿路結石のある患者の看護 4 腎移植を受ける患者の看護 5 透析療法を受ける患者の看護 (1) 血液透析 (2) 腹膜透析				講義
10～14	呼吸器障害のある患者の看護	1 呼吸器障害による症状と観察・看護 (1) 咳嗽、喀痰 (2) 呼吸困難感 (3) 嚥下障害 2 検査を受ける患者の看護 3 治療を受ける患者の看護 (1) 肺癌、手術、胸腔ドレナージ (2) 慢性閉塞性肺疾患、在宅酸素療法				講義
15	試験	まとめ				
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[2]呼吸器			浅野 浩一郎 他	医学書院	
	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[6]内分泌・代謝			黒江 ゆり子 他	医学書院	
	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[8]腎・泌尿器			大東 貴志 他	医学書院	
	根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術			任 和子 他	医学書院	
参考図書・資料等						
評価方法	筆記試験、グループワーク・レポート・出席状況などを総合的に評価する					